

# 平成13年度 土砂災害防止に関する 絵画・ポスター・作文の受賞作品

絵画(小学生)の部 国土交通省砂防部長賞



(板垣朱音さんの作品)

ポスター(中学生)の部 国土交通事務次官賞



(太田明日香さんの作品)

ポスター(小学生)の部 国土交通省砂防部長賞



(小関類さんの作品)

ポスター(小学生)の部 国土交通省砂防部長賞



(齊藤真輝さんの作品)

作文(中学生)の部 国土交通事務次官賞

題名:「私が学んだこと」

作者:「田中睦美」

私は山形県戸沢村の角川という所に住んでいます。角川にはたくさんの自然があります。川はとても澄んでいて、鮎が泳ぐ川として全国でも有名です。また山は

季節ごと様変わりし、おいしい山菜がたくさん採れます。私はこんな角川を誇りに思っています。

でも、自然がたくさんある所には自然災害がつきものです。角川も例外ではなく、昔はとても土砂崩れが多く大変苦しんだそうです。

私がそのことを知ったのは、三年生全員で取り組んだ角川のドキュメンタリービデオの製作を通してでした。このビデオは角川が発祥の地となった国民保険のことを調べて角川のことをもっと知ろうということをねらいにして作りました。そこで私達のグループは、昔の角川にはとても土砂崩れが多く大変だったことに目をつけて、調べることになったのです。

初めに90歳をすぎた秋保さんというおじいさんのところに取材に行きました。秋保さんの話では、土砂崩れが多くけが人なども多かったそうです。でも角川には医者もいないし、みんなお金がなくて病気になっても治せないという状況でした。

そこで国民保険を作ろうと考えたわけです。

さて土砂崩れが最もひどいのは、勝地と平根という地域でした。そこは、山を切り開いたところにあり、坂がとても多いのです。また、地盤がゆるく山が崩れると、家の中まで砂が入ってきたり、畑がつぶれたりしたそうです。そのため角川の人にはとても苦しんだようです。その苦しみを少しでも解消しようと、角川の若い人達が立ち上がりました。土砂崩れによってひびが入ったりした田や畑に、表土とよばれる土を入れ、入れた所を木で作った道具でたたいて、その上からまた土を入れるということを何度も繰り返したそうです。それはとても手間のかかる面倒臭い作業だったはずですが、でも角川を守るため、あきらめずに何度も行ったのです。

そのことを知った時私は、昔の人はすごく大変なことをみんなのためにがんばったんだなあと思いました。たとえそれが本当に角川を救うことになるのかどうかわからなくても、きっと何もしないではいられなかったのだらうと思います。そして私の住んでいる所で、こんなにも大変なことがあたりまえのようにおきていたと思うと、もっとびっくりしました。なぜなら私は土砂崩れの心配なんてしたこともないし、話すすら全然聞かないからです。でもそれはやっぱり昔の角川の人達が、あきらめずにがんばってきたからだと思いました。

そんな人達の地道な頑張りのおかげで、土砂崩れ防止のための工事が始まったのです。

多くの困難を経て、安全になったんだと思うと、自分達もがんばらないといけな いと思いました。

現在、角川の土砂崩れの現状は、全く起きないということではないらしいですが、よく目をこらしてみると、いたるところに工夫がありました。例えば土砂崩れが起きそうながけに網のようなものはったりしています。また土砂崩れが起きないように地下水をぬく大きな穴のような物も作られていました。それは今まで、それが何んだか全然知らなかったけど、自分で角川の人に直接質問してみたり、資料を調べてみたら、なんで工事してるのかも分かったし、どうして変な所に意味の分からない穴があるのかも分かりました。

いろんなことを調べていくうちに、土砂崩れという今まで考えもしなかったことに興味を持ち、その疑問を解いていくことで得た気分になっている自分に気づきました。そして、普段何気なく生活している私たちの周りには、安全に暮らす

ための様々な工夫がたくさんあることを知ったのです。

私はこれからも、土砂崩れ防止の作業を続けてほしいと思っています。災害はいつ起こるか分からないし、思わぬ時にくるから被害はかなり大きいです。絶対大変なことになることが、分かっています。今の私たちにそんな災害を乗り越えられるかどうかとても疑問です。でも他人事じゃないんだなという気持ちが今の私にはあります。いったい何ができるのかわかりませんが、昔の人達に対する感謝の気持ちを忘れないで、自分のふるさとに関心を持っていきたいと思えます。そして土砂崩れが起きないように注意していきたいです。

## 作文(小学生)の部 国土交通省砂防部長賞

題名:「さぼうダムを見学して」

作者:「井上竣平」

夏休み中に、ぼくとお兄ちゃんとお父さんと、いろいろなさぼうダムを見学して来ました。

最初に見たさぼうダムは、「小国川玉川スーパー暗きょさぼうダム」という所でした。平成一三年三月に完成したばかりのダムで、高さが一二メートル、長さが百九十四メートルありました。よく見ると、大きなトンネルみたいなあなが四つありました。水が、どんどんそのあなの中を流れていました。その水はぜんぜんよごれていませんでした。それから、ダムの上に上がって見たら、両はしに、とても大きくてきれいな石がならんでありました。そのダムは、橋の役目もしていたので、ぼくたちはダムのまん中まで歩いて行って、上から見てみました。すると、深い所やあさいところもありました。このダムは、上の方を見ても、下の方を見ても、石や水はとてもきれいでした。まだ新しく、できたばかりなので、すなやどろは、ほとんどたまっていませんでした。これから何十年も、周辺の人々を土しゅからしっかりと守ってくれそうでした。

次に行ったさぼうダムは、「六淵さぼうダム」です。完成したのは、昭和五十四年十二月と書いてありました。このダムのたかさは十五メートルで、長さが百七十四メートルでした。このダムはけっこう古く、ダムの上の方は、どろやすなでいっぱいでした。大きいかれ木も流れて来ていました。上の方に行っても行っても、すなやどろの山でした。何だか、もうじゅ命のような気がしました。ダムの下の方を見ても、小さなダムを作っていました。ぼくは、「大きくて古いダムではもうささえきれないので、もう一こ新しいのを作っているんだな。」と思いました。その新しくて小さいダムと力を合わせて、がんばってほしいと思いました。

次に行ったダムは、いつかお父さんと魚とりをした時に、一度見たことがありました。いつできたかはわかりませんが、石をつんでできたダムです。高さが十メートル位、長さが二十メートル位で、かなり古かったです。上から流れて来た水が、そこをほって、深い所で三メートル位ありそうでした。ダムの下の方はやっぱりきれいでしたが、上の方に行ってみると、すなやどろがいっぱいたまっていた。きっと、もう何十年も仕事をしてくれたんだなと思いました。

ついこの前、台風十一号がやって来ました。ぼくたちの地いきでも、たくさん雨

がふりましたが、ぼくは、「さぼうダムが、ぼくたちを守ってくれるから、ぜったい大じょうぶだ。」としんじていました。その通り、何事もなく台風は通りすぎて行きました。

さぼうダムは、目立たない山の中にひっそりとたっています。でも、その役わりは、本当に大切です。それは、周辺に住んでいる人たちを、土しゃさいがいから守ることで、ぼくたちが大人になっても、大すきな小国町に住んでいられるように守ってくれる、大切なさぼうダムを、これからもずっと見つめていきたいです。